

2023年9月28日

2022年度学校関係者評価報告書

エール学園  
学校関係者評価委員会

エール学園学校関係者評価委員会では2022年度自己点検・自己評価表に基づき学校関係者評価を行いましたので、以下のように報告致します。

1 学校関係者評価実施概要

① 学校関係者評価委員名簿

氏名	所属	属性
吉水 雄一	株式会社OSコンサルティング 代表取締役	企業・業界団体関係者
原田 智樹	株式会社アーストレック 代表取締役	卒業生 企業・業界団体関係者
牧 文彦	NPO 法人ディープピープル 理事長	企業・業界団体関係者
中澤 修	株式会社ケイティエス 常務取締役	卒業生保護者
内山 雅文	大阪 YMCA	在校生・卒業生の出身学校

② エール学園参加者

氏名	所属	属性
任 澁龍	エール学園	卒業生 同窓会会長
長谷川 恵一	エール学園 総長	総長
萩原 大作	エール学園 副総長	副総長
崎村 真	エール学園 理事長	法人代表者
木田 明美	エール学園 副理事長	法人本部事務責任者 事務局担当
木村 多恵子	エール学園 校長	学校代表者
豫城 聖子	エール学園 事業開発事業本部 本部長	学生募集運営責任者

田中 雅彦	エール学園 応用日本語教育事業本部 本部長	専門教育学科運営責任者
西村 康司	エール学園 キャリア教育事業本部 本部長	専門教育学科運営責任者
濱田 久美子	エール学園 日本語教育事業本部 本部長	日本語教育学科運営責任者
岡本翔太郎	キャリア教育メンタリング室 室長	専門教育学科教務部門責任者

③ エール学園学校関係者評価委員会次第

学校関係者評価日程		
日 時：2023年8月29日（火） 13時00分～15時00分		
場 所：エール学園1号館4階 大会議室		
会議名：エール学園学校関係者評価委員会		
会議次第		
時間	項目	担当者
13時00分	1. 開会挨拶	長谷川総長
13時10分	2. 委員紹介	事務局
13時20分	3. 2022年度自己評価結果全体について ・自己評価結果概要説明 ・専修学校における学校評価ガイドラインに 基づく評価の大項目別の概要説明 ・各学科の活動状況報告及び進路状況につ いて	学校側各担当者
14時20分	4. 質疑応答／意見交換	各委員より発言
14時40分	5. 結果とりまとめと公表計画について	事務局
14時50分	6. 閉会挨拶	木村校長
参考資料		
1 2022年度エール学園自己点検・自己評価結果報告書		
2 学校パンフレット一式		
3 新年度学則（2023年度学則）		
4 学科別在籍状況及び卒業及び進路状況資料		
5 2022年度財務状況資料 決算概要		
6 その他の資料		

2 外部委員より頂いた意見・評価

評価項目	評価・意見
教育目標と重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「なりたい自分」「つくす自分」という教育理念・重点目標の達成状況、課題と解決策が明確であり評価ができます</li> <li>●「なりたい自分と、つくす自分」の目標で他者への配慮があるのが良い。目標達成のためメンタリング制度が導入されており、有効に機能している。学園の50年先までの目標が決められているのが良い。</li> <li>●教育目標と重点目標の具体的な実践がうかがえる。</li> <li>●「進学」「就職」「公開模擬試験」「海外大学連携」「ボランティア活動」などいずれもKGIを数値化して学内で周知し学園全体がその目標を意識し、学生と接することで学生自身の留学目標と学園KGIが直結し、留学生にとっても留学生生活を安心して送ることが出来ていると感じます。その安心感が学生の自走を醸成していると考えます。</li> <li>●グローバルな世界での学園の強みを活かし世界の架け橋人材を多く輩出することで社会に貢献されていると思います。</li> </ul>
基準1 教育理念・目的・育成人材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育理念、教育の目的、育成人材像はいずれも明確で具体的な行動指針に落とせていると思われます。</li> <li>●目標理念が抽象的にならないように、エール独自の学生指導の教育理念・目的・育成人材メンタリングが導入されており、更に成果と意欲を数値化で表すため、YPM指標が導入されている</li> <li>●理念表出が常に意識化され努力されている。</li> </ul> <p>学園理念である「なりたい自分、つくす自分」は全職員、学生にも浸透し、特に留学生にとっては「つくす自分」を理解し意識を変えることができれば、日本でビジネスを希望する学生にとって「お客様を第一に考える日本企業」の働き方とは親和性が非常に高く、価値のある仕事につながると考えています。今後も日本に留学を希望する学生には是非学園の理念を浸透させていただきたいと企業視点から考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●理念を固定したものではなく、時代と共に進化発展させてこられ、現在は第三世代の理念に昇華されいることは素晴らしいと思います。また、年度計画への落とし込みで概念ではなく実践行動となり成果へとつながっていることがわかります。</li> </ul>
基準2 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運営方針、事業計画、運営組織や意思決定機能、人事制度の整備などにおいて意欲的な学校運営がなされています。</li> <li>●コロナ禍で学生数は450人減ったが、それでも1100人弱は、維持して、又節約にも努め、黒字であり評価大である。早くコロナ前の1600人になるよう努力してください。</li> </ul>

	<p>●事業計画の落とし込みがなされている次年度の ICT 校に期待する。</p> <p>2023 年 6 月から全対面講義が再開される中で、学園の高い社会価値である地域ボランティア活動も再開し、ボランティアワークは 146 件の実績を残すなど一層地域社会との連携を密接にしています。その地域社会との密接さが地元企業と学園との連携につながり、留学生の就職実績につながるなどエール学園ならではの学校運営は他校にも大きな影響を与え、学園の学校運営はモデル規範となっていると考えます。</p> <p>●学生の成長を支援するために、教職員自身が成長することを運営の柱にしており、教職員の成長の仕組みと個人目標と連動させているところに特色ある学校運営をされていることが成果につながっていると思います。</p>
<p>基準 3 教育活動</p>	<p>●各学科の教育目標、人材育成象は業界のニーズに向けて合わせられており、各業界に必要なレベルの教育活動が行われています。</p> <p>●学生の多国籍化と希望する進路の高度化と多様性、非漢字圏の学生が増える中、多様なコースを設定している。メンター制度も機能している。</p> <p>●社会ニーズとのマッチングを積極的に実践されている。</p> <p>●留学生の日本留学目的、目標が多方面化する中で起業している卒業生と共同プロジェクトを立ち上げる等、留学生の留学目標を多方面で支援しています。</p> <p>●留学生に特化した学科運営により、教育活動の充実に大きな成果を上げていることがわかります。非漢字圏への対応がますます重要になっていることで社会に通じる日本語力向上が今後も課題になってくると思われると共に企業が必要とする人材力の開発に引き続き注意を払って頂きたいと思います。</p>
<p>基準 4 教育成果</p>	<p>●高い就職率を達成し、難関国公立大学・大学院への進学に大きな実績を維持、教育成果しています。就職率、資格取得率の向上が図られています。</p> <p>●国立大学、大学院と難関私立大学、院への 2021 年度の入学者は 105 名、その他大学の入学者は 175 名と高い成績が出ている。就職希望者のほぼ全員の就職が達成されており、上場企業への就職も増加中。</p> <p>●アウトプットではなくアウトカム重視がうかがえる。</p> <p>●コロナ禍で新たに生まれたネパールを含めた海外とのオンライン交流会など同校が強みとしている海外との連携が一層強化されたことなど、コロナ禍を経て課題を着実に次への投資と変えていることは学内教育にとどまらない同校ならではの成果であり、コロナ禍で制約が多い中、上述の KGI 以外にも着実に次の教育に向けての芽が芽吹いていることは、将来の新たな教育事業につながっていると考えています。</p> <p>●企業の留学生採用の問題がある中、就職希望者 100%のの達成を実現されていることは素晴らしいと思います。</p>
<p>基準 5 学生支援</p>	<p>●就職・進学指導のサポート体制が備えられています。学生相談に関する体制、経済的な支援体制、健康管理の支援体制などの体制が有効に機能されています。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アルバイトの世話から、寮の設備等、良く対応されている。コロナ禍では、学業維持のため、生活費の貸付、学費の延納、分納と物心両面の支援が行われている。</li> <li>●多様な支援が実践されている。</li> <li>●学外活動支援も就職実績に強みを持つ同校ゆえに強みとして持っています。一方で学生の自主性を引き出すことにも現在は注力し、殊就職についても学生の自由応募実績が増えていることから、今後学生への支援と学生の自主性の醸成とのバランスを図る段階に入っていると感じます。</li> <li>●学生支援の柱として、就職、進学、生活指導、各種相談と項目ごとに専門人材を配置し、特化することで学生支援全体の質を確保できているのだと思います。</li> </ul>
<p>基準6 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学外実習、インターンシップ、海外研修等の教育体制の整備、防災に対する体制も整備されています。</li> <li>●教室が近くに集まっており、駐輪場も整い、ICT設備も充実しており、寮も近くにあり、充実している。</li> <li>●ともすれば教育環境としては好ましくないと捉えられがちな繁華街という地域性を、逆に優位性として生かしている。</li> <li>●コロナ社会になる前から同校は海外連携ツールとして ICT に積極的に投資してきたこともあり、コロナ禍で一層充実したオンラインインフラなど学生がオン・オフライン双方で学ぶことができる教育環境は留学生にとって満足度が高いものがあります。</li> <li>●全教室に ICT 設備を導入され、時代にあった教育環境を完備されている。</li> </ul> <p>大規模災害の備えとして、定期的に訓練をされているとのこと、言語、習慣が違う留学生があらゆる場面で身を守るための、防災習慣の定着を目指して欲しい。</p>
<p>基準7 学生募集と受け入れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●上海事務所、韓国事務所、ベトナム事務所を設置し質の高い学生の募集が行えています。奨学金制度も整え優秀な学生の確保を実施できています。</li> <li>●海外のトップ大学との提携も進み、教室の建て替えも進んでおり評価できる。出入国管理庁の審査をクリアした留学生を入学させるシステムで優である。円安による日本離れの対応が必要では。</li> <li>●アフターコロナとして回復は堅調である。</li> <li>●2023年6月から海外募集も解禁となる中で、同校のこれまでの強みである海外ネットワークとの連携を生かし、海外からの人材募集は順調であることは間違いないと考えています。一方で2024年新設開校のICT校の募集についてまだ募集前とのこともあり、今後日本人材の募集とあわせて海外人材との新たな化学反応を期待しています。</li> <li>●海外エージェントとの長年にわたる信頼関係の構築によりきめ細かい受け入れ態勢を構築されており、それがレベルの高い留学生の受け入れ実</li> </ul>

	績となっていることがわかります。
基準8 財務	<p>●コロナ禍で留学生が減ったなか、経費削減を実施し、安定した財務状況と思われま。</p> <p>実質無借金経営であり、コロナ禍でも、黒字経営であり優である。</p> <p>2024年4月開校の技術系(パソコン他)の新専門学校、エールICTにより、より安定した経営が期待できる。</p> <p>●アフターコロナとして回復は堅調である。</p> <p>●コロナ禍にあり経常収支額が黒字を継続維持し、20年間黒字化を続けていることから財務体質が健全な経営をしていると評価します。コロナが本格的に明け2024年度以降は学生の募集好調もあり、一層の財務面が安定強化されると考えています。</p> <p>●コロナ期間でも経費削減の努力により黒字を達成されてきたことは素晴らしい、今後増加傾向にあることから健全で強い財務基盤が達成されることと思います。</p>
基準9 法令等の遵守	<p>●留学生の在籍管理に努め「在籍管理適正校」の認定を受けるなど、高い評価を得られています。教職員の労働環境の改善にも努められています。</p> <p>●学園の設置基準や出入国管理にはその法令尊守されている。</p> <p>学生の多国籍化や、文化の多様性に良く対応されており、特に在籍管理に注力されており良である。</p> <p>●学園運営において法令遵守は問題はなく、その証左として2024年から新設ICT校の新設批准はエール学園の実績からも判断され、新設校開設に向けて順調に進んでいるため学園全体の法令遵守には引き続き徹底されていると評価します。</p> <p>●留学生の在籍管理適正校の認定や教職員の労働環境の改善、女性活躍リーディングカンパニーの認証、男女いきいき、元気宣言業者としての登録など、さまざまな取り組みで実績を積み上げておられること素晴らしいと思います。</p>
基準10 社会貢献・地域貢献	<p>●地域や各種団体への通訳・翻訳の協力、地域貢献型インターンシップの実施、学生のボランティア活動の奨励、企業や団体との連携・交流など様々な取り組みを行うなど社会貢献をされています。</p> <p>●区役所、町内会への貢献、清掃他、大阪商工会議所との連携(パソコン講座)も優である。又不法滞在者や、不法就労が無いように事前に長欠者等に対応している。</p> <p>●積極的に外部との繋がり、連携、協働がはかられている。今後、GXに対する積極的な取り組みを期待する。</p> <p>●社会貢献・地域貢献はエール学園が常に大切にしてきた理念であり、実践してきた行動であり、別項目で上述したとおり、ボランティア件数までKGIとして数値化している学校法人は稀有であり、規範とされるべき姿勢であると今のような日本が世界からインバウンド需要増加で注目されている時代だからこそ感じます。またその活動に従事してきた学生は、企</p>

	<p>業としても貢献意識を大切に育んできた人材として高く評価していると考えています。</p> <p>● 「地域を意識したビジョン」で、多文化共生の地域づくりに貢献する学園となることを宣言され、さまざまな活動に積極的に学園を挙げて取り組まれており、行政の取り組みでは届かない中心的な役割を担っておられることで、留学生の貢献意欲も高めると同時に地域貢献も実現されています。</p>
--	--

### 3 まとめ

エール学園では、自己点検・自己評価とそれに基づく学校関係者評価での意見・評価を今後の学校運営の改善に活かす努力を続けるべく、ここにこの結果を公開致します。

また、継続的に自己点検・自己評価→学校関係者評価のPDCAサイクルで教育の質向上に努力する所存です。

以上